

予報期間 12月9日から12月15日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 11日は、日本海に発生する低気圧が北日本を通過して千島近海へ進み、大陸の高気圧が張り出して日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 12日は、大陸の高気圧が日本海へ移動する。
- 13日は、高気圧が日本の東へ移動し、低気圧が日本海西部と西日本の南へそれぞれ進む。
- 14日は、日本海の低気圧は北日本付近へ進む。本州南岸の低気圧が三陸沖へ進む。
- 15日は、低気圧が発達しながら日本の東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置となる。

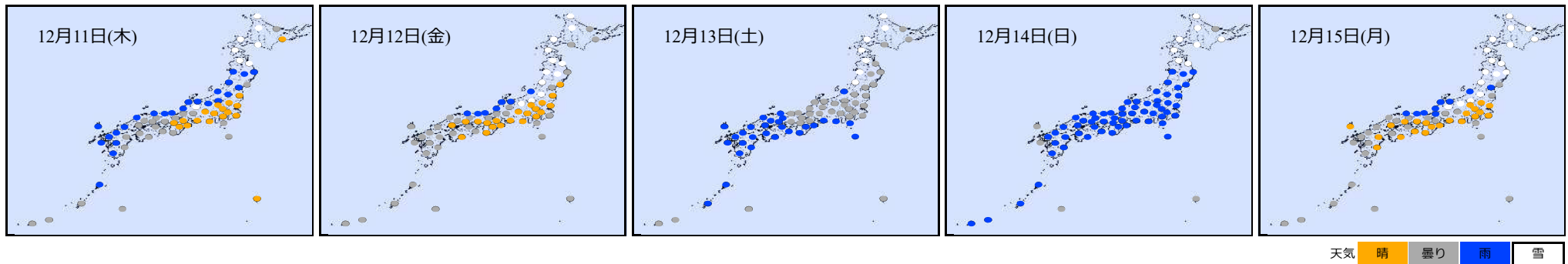
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 12日は、冬型の気圧配置の影響で北日本日本海側を中心に荒れた天気となり、冬型の気圧配置の強まりの程度によっては大荒れとなるおそれがある。
- 14日頃は発達する低気圧の影響で、北日本から西日本の広い範囲で荒れた天気となるおそれがある。今後の資料に留意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

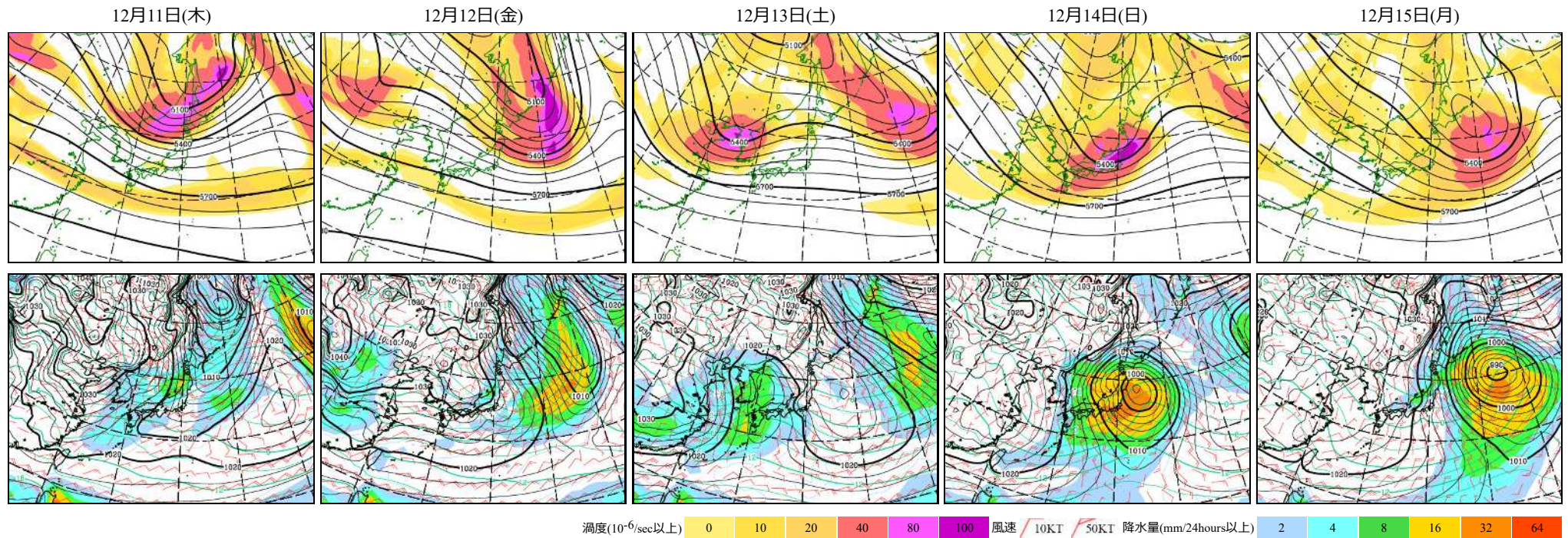
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

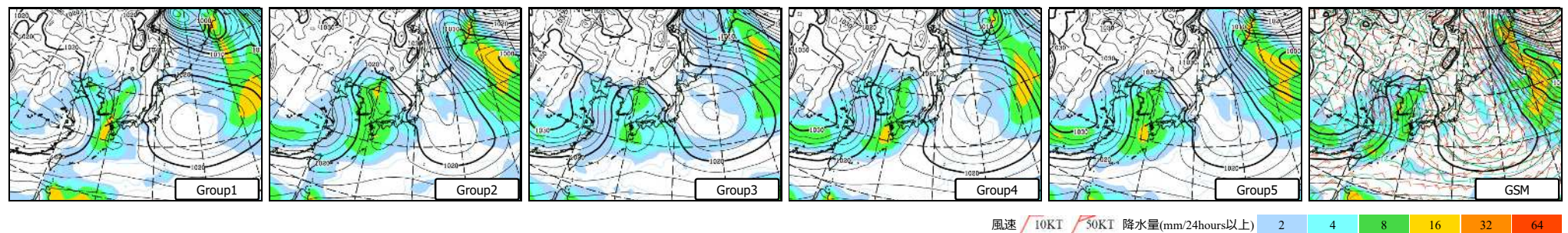


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、13日と14日は雨の降る所が多い。
- 西日本太平洋側は、晴れる所もあるが、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、11日と13日から14日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月13日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、11日は西日本付近を通過する気圧の谷が明瞭となった。また、14日頃は日本付近へ進むトラフが深くなり、低気圧の発達が強まった。降水確率ガイダンスは、11日の西日本と13日の東・西日本で大きくなった。
- スプレッドは、期間の終わりは大きくなり、日本付近から日本の東へ進むトラフの深さや東進の早さに不確実性がある。
- 13日の日本付近の低気圧は、日本海と西日本南岸付近に予想しているメンバーが多いが、南岸の方は不明瞭なメンバーがあり、位置や発達の程度はメンバー間のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。